



高茶屋

立場、津と雲津の中間地点
酒、貝焼、白木の樽が名産であった。
晴れた日には富士山が見えたという。



雲出宿 (島貫町)

雲津川の渡しの手前で旅籠、茶屋があり
伊勢参りの旅人で賑わったという。
本陣のあった所に明治天皇小休所跡碑
が残る。
雲出川には新しい橋が架かり渡し場
辺りにあった常夜燈も橋の南北に
移されている。

[弥次・喜多]

途中高名な狂歌師と間違えられ
十辺舎一九になります。

ここ島貫の旅籠屋主人、ごま汁は
自宅に招く、やがて仲間が集まり
歌を披露

”ほととぎすじゅじざいに
きく里は酒屋へ3里とうふ屋へ2里”
やがて本物の一九が

来ることが分り、夜中に[弥次・喜多]
さんを追い出す。
名物のこんにやく料理の焼き石を
食う失敗談もこの旅籠。

”いとまじとをりーぺん旅の
恥かきすててゆくあふぎたんざく”



松浦武四郎

探検家、“北海道”の名づけ親。
文政元年(1818)紀州藩士松浦時春
の4男として三雲町小野江に生まれる。
13歳で津藩平松楽齋に漢学学ぶ。
16歳で江戸に出て篆刻を習う。
18歳で出家、遍歴途中の長崎で
ロシア南下で蝦夷の危機を知り還俗
弘化元年(1844)27歳の時蝦夷探検
に出る。知床半島、樺太、千島踏破。
安政2年(1855)幕府雇人に起用され
3度にわたり蝦夷地を歩く。
明治2年新政府の開拓御用掛として
”北海道”命名する。
老後は大台ヶ原開拓に専念、70才で
富士山登山。
画家、地名学者、書画鑑定家……
など多彩な人物。



香良洲神社

祭神:大津稚女命、稚日女命(天照大神の妹)
素盞鳴命が斑駒を逆剥にして齋機殿に投げ
入れたときに亡くなった神々。
欽明天皇の御代(540-72)に津国の活田長狭国
より香良洲に遷座。
伊勢神宮参詣折り香良洲神社への参拝も多
かったという。



南の常夜燈

若桜会館(歴史資料館内)

予科練の基地跡。予科生の遺品、遺書、遺影など
太平洋戦争が熾烈を極めた昭和17年8月海軍航空機
搭乗員育成のため三重県海軍航空隊が開隊され
海軍飛行予科練生の育成が始った。

[弥次・喜多]

”照わたる秋の月本ならば
今うかれまいらん鳥御前に”



勅使塚

養和元年(1181)源氏追討祈願のため
伊勢に向かう密使中臣定隆はここの志塚
で急逝した勅使の塚。

